

Minami Kyushu University Syllabus						
シラバス年度	2023年度	園芸キャンパス		都城キャンパス		
科目名称	園芸福祉学特論Ⅱ			実務経験	○	Active・L ○
科目コード	642601	単位数	2単位	学位授与方針との関連	DP1, DP2	
教員氏名	林 典生					
授業概要	造園福祉の成り立ちや目的、役割等を理解した上で、医療・福祉・生涯学習現場で行われている実践や研究事例を検討するとともに、今までの実践例やプログラムを分析したり、プログラムを企画・実施したりする視点を解説する。また、これらの検討・解説したことを踏まえ、植物や緑と触れることによる効果や役割等を理解し、植物や緑の意義について他者にわかりやすく伝えることの知識と能力を習得する。					
関連する科目	同時に園芸福祉特別演習を履修するとともに、履修前に人間植物関係学特論Ⅰ・Ⅱ、園芸福祉特論Ⅰを履修すること。					
授業の方法と進め方	授業の流れは前半にテーマに関する配布資料等で園芸福祉にかかわる基本概念や基本知識を再確認するために講義を行う、後半は事前に指定した国内外の論文・書籍をまとめてきた課題を報告し、意見交換をするなどアクティブラーニング型の授業を行います。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 園芸福祉活動プログラムの考え方 授業の進め方を説明するとともに、資料の読み方に関する講義を行う。 2. 園芸福祉活動プログラムの実際1（高齢者） 高齢者を対象にしたプログラムの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 3. 園芸福祉活動プログラムの実際2（しょうがい者） しょうがい者を対象にしたプログラムの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 4. 園芸福祉活動プログラムの実際3（子ども） 子どもを対象にしたプログラムの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 5. 園芸福祉活動プログラムの実際4（コミュニティ） コミュニティに根差したプログラムの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 6. 園芸福祉活動プログラム作成に必要な視点（コミュニケーション） プログラム実施する上で必要なコミュニケーションの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 7. 園芸福祉活動プログラム作成に必要な視点（ケースマネジメント） プログラム実施する上で必要なケースマネジメントの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 8. 園芸福祉活動プログラム作成に必要な視点（コーディネート） プログラム実施する上で必要なコーディネートの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 9. 園芸福祉活動プログラム作成に必要な視点（リスクマネジメント） プログラム実施する上で必要なリスクマネジメントの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 10. 園芸福祉活動プログラム作成・準備事例演習1 園芸福祉プログラム作成に生かすために今までの流れを振り返り、与えられた事例に基づきプログラムを作成・準備・意見交換する。 11. 園芸福祉活動プログラム実施・振り返り事例演習1 前回作成した事例に基づき作成したプログラムを実施し、振り返り・意見交換を行う。 12. 園芸福祉活動プログラム作成・準備事例演習2 前回実施したプログラムの振り返りを生かして、10回目と異なる事例に基づきプログラムを作成・準備・意見交換する。 13. 園芸福祉活動プログラム実施・振り返り事例演習2 12回目で作成した事例に基づき作成したプログラムを実施し、振り返り・意見交換を行う。 14. 園芸福祉活動プログラム作成・準備事例演習3 2回実施したプログラムの振り返りを生かし、10・12回目と異なる事例に基づきプログラムを作成・準備・意見交換する。 15. 園芸福祉活動プログラム実施・振り返り事例演習3 14回目で作成したテーマに基づき作成したプログラムを実施し、振り返り・意見交換を行う。 					
授業の達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 園芸福祉活動など植物や緑の効果を理解している。 2. 植物や緑の福祉的利用について検討できる。 3. 既往の研究や事例から正確な情報を把握できる。 4. 植物や緑を用いた園芸福祉プログラムを提案できる。 5. プログラムを活用できる場づくりが構築できる。 					
授業時間外の学修	第1回目の授業で示す参考図書など、主に基礎的な園芸福祉論に関する資料を授業前に読む。授業後に理解が曖昧な時は再度精読する。また、園芸療法等の造園福祉に関する実践活動に関する知見を深め、社会的意義を理解するために、身近な活動現場に赴き、その実態や位置づけなどについて考察を深める。予習復習4時間程度必要です。					
課題に対するフィードバック	課題等は確認した後に返却します。必要に応じてコメントします。	評価方法・基準		受講態度や発表、報告物に関して、課題の理解、関係資料の活用、論点の整理、独自の視点について毎回のプレゼンテーションレポート（100%）で評価する。		
テキスト	関連書籍及び関連論文					
参考書	授業中に紹介するが一例として、以下の書籍を紹介する。 豊原憲子・石神洋一・宮上佳江著（2007）福祉のための園芸活動 無理せずできる実践マニュアル 農山漁村文化協会（都城キャンパスに蔵書有） 田崎史江（2006）園芸療法。金芳堂（都城キャンパスに蔵書有）					
備考						